

練り込みタイプ難燃レーヨン

DFG[®]

セルロース系繊維の内部に難燃剤を分散保持。素材自体を難燃化したレーヨン繊維なので、難燃性能の優れた耐久性と、レーヨン特有の風合い・触感・保湿性を兼ね備えています。また、生分解性を有するセルロースを難燃化しているため、環境にも優しい素材です。

①

素材から難燃化

- 普通レーヨンと同等の優れた吸湿性・吸水性があります。
- 難燃性とレーヨン特有の風合いや、触感を両立しています。
- 優れた耐久性で、洗濯での難燃性能の低下がありません。
- 難燃性の指標である限界酸素指数(LOI値)は28以上です。
(JIS L1019 E法による)

②

優れた熱的特性

- 熱収縮性、熱溶融性がないため、合織のように加熱による変形や収縮がありません。
- 炭化する作用で難燃性能を発揮。また、ポリエステルなどの溶融繊維とは違い、燃えても溶け落ちて皮膚に付着したりすることはありません。
(他素材と混合使用する場合は、適正を確認ください)

③

燃焼ガスについて

- ハロゲン系薬剤を含んでいないので、燃焼時にハロゲン由来の有毒ガスが発生しません。
- 他繊維と比べ発煙量が少なく、シアンガスの発生もありません。

④

廃棄も簡単

- セルロース系繊維なので、一般的な綿製品と同様に廃棄可能。特殊な処理は不要です。

ダイワボウレーヨン株式会社

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号 御堂筋ダイワビル11階
TEL/06-7635-3294(代) FAX/06-7635-3291 E-mail/dr-kanri@daiwaborayon.co.jp

<https://daiwaborayon.co.jp/>



リン系難燃剤の使用で、炭化作用による形状保持や難燃性能を実現

燃焼性試験での難燃ポリエステルとの比較(接炎部)



難燃ポリエステルの場合

- 溶融し、穴が開いてしまう。
- 高温の溶融物が肌に付着する可能性がある。



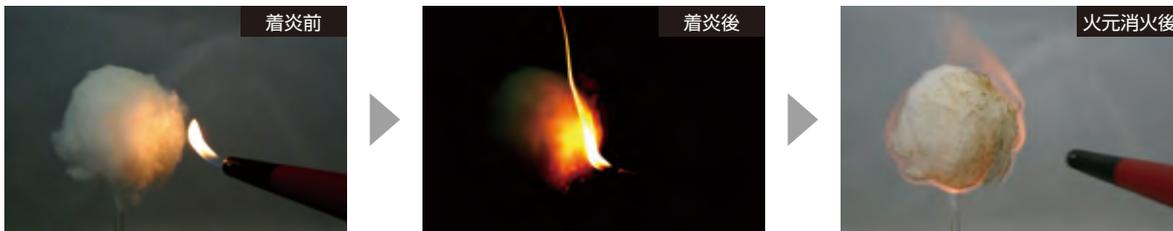
DFG®の場合

- 炭化することで、形状を保持。
- 溶融繊維ではないので、肌に溶融物の付着がない。

● 燃焼試験方法: JIS L 1091 A-1法 ● サンプル: 200g/m² スパンレース

簡易燃焼試験でのレギュラーレーヨンとの比較

レギュラーレーヨン



火元が消えても
引火した炎が
燃え続ける

DFG®



引火もなく
接炎部が
焦げるだけ

DFG® (洗濯後)

● 処理方法: ISO6330 2A



洗濯前と
ほぼ変わらない
効果を発揮

【取り扱い及び使用上の注意事項】

・性能については、当社原綿100%または混綿でのご使用の際には、改めて確認をお願いいたします。 ・火傷等身体の保護を保証するものではありません。 ・使用上の用途・条件・環境をしっかりと把握した上でご使用ください。 ・40℃以下の屋内(直射日光の当たらない場所)で保管してください。変色する場合があります。 ・保管場所周辺では、火気及び強酸化剤は使用しないでください。 ・NOx、SOx等の排気ガスが発生する場所での取り扱いはしないでください。変色する場合があります。